

5. 支援の流れ～対応について～

		認知症なし	MCI（軽度認知障害）	認知症（初期）	認知症（中期）	認知症（後期）
		日常生活が自立している状態	健常と認知症の間	周囲の見守りで日常生活は自立できる	日常生活に支援や介助が必要	常時、介護が必要
本人の様子		- 物忘れはあっても日常生活に支障はない - 金銭管理や買い物が一人でできる - 趣味や地域活動などに意欲的に参加している - 身の回りのこと（食事、入浴、排せつ、服薬など）が自立している	- 今までできていたことがおっくうになる - 探し物が増える - 好きだったことをやめてしまう - 最近の記憶が抜け落ちる	- 短期間に同じことを何回も聞く 簡単な計算ができない - 手順の多い料理ができなくなる - 一人歩きして道に迷う - 家電の操作など複雑な手順ができなくなる - 支払い計算や契約の理解が困難になる	- 時間や曜日、季節、年次などがあやふやになり、服の着替えが困難になる - 被害妄想などの行動、心理症状が増える - 感情の起伏が激しくなる - 飲食、排せつなど日常の行為が困難になる	- 言葉を発することがなくなり、意思表示が難しくなる - 寝たきりになり、生活全般に介護が必要 - 家族の顔も判別できなくなる - 身体機能が低下して、嚥下障害や失禁が頻回になる
	家族・介護者の対応	- 本人の自立を尊重し、過度に心配しすぎない - 健康管理（運動、食事、社会参加）を一緒に意識する - 物忘れが気になれば早めに医療機関へ相談 - 将来に備えた話し合い（意思決定、財産管理など）をしておく	- できていることを奪わず、さりげなく支える - 失敗を責めず、自尊心を傷つけない関わり - 生活リズムを整え、外出や社会参加を促す - メモやカレンダーなどを活用する	- 見守りを中心に、必要な場面のみ手助けする - 同じ質問にも穏やかに繰り返して対応する - 予定や服薬管理をサポートする 道に迷う可能性に備えた対策（連絡先携帯など） - 本人の不安を受け止め、安心できる環境を整える	- 感情の変化を否定せず、気持ちに寄り添う - 生活動作（食事、更衣、排せつ）を段階的に介助する - 介護サービスの活用を検討し、介護者自身の休息（レスパイト）を確保する	- 身体的ケアを中心に安全と安楽を優先する - 表情やしぐさなど非言語的サインを大切にする - スキンシップや声かけで安心感を伝える - 医療・介護チームと連携し看取りも視野に入れる - 家族自身の心身のケアを大切にする